

■児童の学力の状況

- 昨年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」やRSTの結果から、国語では「資料や説明文から問題を見つけたり、自分の考えを伝えたりする力」「主語・述語・修飾語の関係を読み解く力」、算数では「図形」「文章題」の分野の平均正答率が低い。
- 学習に対して受け身の姿勢の傾向がある。自分の考えをまとめ課題解決に向けて取り組み、積極的に友達に伝えたり表現したりする力を伸ばす必要がある。
- 予習・復習など、家庭学習が定着していない児童がいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 語彙力をさらに身に付ける指導が必要である。
- 一斉授業ではなく、児童が主体的に取り組めるような課題選択や問題解決学習を行う指導が必要。
- 発達段階に応じたノート指導や家庭学習の徹底について、全教員で共通理解し、指導を続けていく。
- ICT機器を活用した授業の取組について、さらに効果的な活用方法を共有していくことが必要。
- 低学年の段階で、授業規律の確立が必要。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 学ぶ楽しさを広げる。
 - ★学力の保障 板橋授業スタンダードを生かし、「わかる・できる授業」を目指す。
 - ★探究的な総合的な学習の時間 地域をテーマとして、探究活動を実施する。
- 「読み解く力を」高める。
 - ★読む力の育成 朝読書を通して活字を楽しめる児童を育てる。
 - ★書く力の育成 共書きで効率的な学習ができるようにする。
 - ★話す力の育成 わかりやすく伝える技能を身に付けさせる。
- 児童に寄り添う指導・支援の工夫
- 一人一台の端末活用で学びの個別最適化

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	「読み解く力」を高める授業	総合的な学習の時間との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○ スタンダードを生かした「わかる・できる授業」にするために、のプロセスを大切にすること。 ①学習課題・めあてを明確に示す。 ②自力で教科書を読み取り、課題を解決する時間を設定する。 ③集団で解決する。分かったこと、考えたことを相手に伝える力を育てる。 ④まとめ・振り返りを明確に書かせる。めあてが達成されたかを自ら確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本を身近に置き、時間を見つけて読書する習慣を身に付ける。 ○ RSTの結果をもとに、論理的な文章読解を意識した授業を各教科で行う。 ○ 共書を推進し、効率的にノートがとれるようにする。 ○ 話す場面を多く設定し、わかりやすく伝えることを意識化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間の学習の過程を次の通りに改善し、児童自身が意欲的に課題を設定し、学習のめあてと見通しがもてるようにする。 課題の設定→予想→活動→結果→考察→結論→考察 ○ 地域をテーマとして、児童の生活に根ざした単元を全学年で1単元以上実践する。 <p>※ 総合で培った力を各教科・領域に生かす。</p>

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

小中一貫教育の推進 いたばしのiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育の取組を通して学力向上を図るとともに、基礎学力を習得させるために教科書の徹底活用を通しながら課題を解決する活動を充実させる。 ○ 地域との関わりを深め、郷土板橋を愛する心を養うために、地域の伝統文化や行事にふれる機会を設定する。地域の人材を活用した学習活動や児童と地域の人が共に学ぶ活動を生活科、総合的な学習の時間、社会科、特別な教科、道徳を中心に展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的な学力の向上を図るため、児童一人ひとりの特性と能力を踏まえた指導に努める。 ○ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、特別の教科道徳との関連性を図った指導を行う。その際、学習の目標を明確にして児童に提示をする。授業の終了時には目標に沿った振り返り・まとめに必ず取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報に関する「基本的な操作等」「問題解決・探求における情報活用」「プログラミング」「情報モラル・情報セキュリティ」の4つの学習内容を、各学年の教科・領域等に適切に位置付け、教科横断的な視点から教育課程全体を通して情報活用能力の確実な育成を図る。 ○ 一人一台端末を活用して、ドリルソフト等の個に応じた学習や調査活動、表現・製作、発表や話し合い、共同製作、インターネットを活用した学習、家庭学習での個別学習など個別最適な学びと協働的な学びを実現し、情報活用能力を含む資質・能力を育成する。